

スモン患者におけるストレスレジリエンスと心理的適応

三ツ井貴夫 (国立病院機構徳島病院臨床研究部)

井上真理子 (国立病院機構徳島病院四国神経・筋センター)

田村 結唯 (国立病院機構徳島病院四国神経・筋センター)

島 治伸 (松山東雲女子大学人文科学部)

松浦美恵子 (国立病院機構徳島病院臨床研究部)

研究要旨

徳島県では平成 29 年度よりスモン検診時に心理相談を実施している。昨年度は、スモンに関する疾病受容と日常生活の自立度に関する調査を行い、疾病受容の一部の要素は日常生活の自立度に関連することを報告した。本年度は疾病というストレスを受けた時、どのような過程を経て心理的適応がおこるのか、疾病を受け入れる前の段階について調査することとした。本研究では、ストレスからの立ち直り (レジリエンス) と心理的適応の関連、及び日常生活の障害度と心理的適応との関連について、郵送によるアンケート調査を実施した。対象者は令和 4 年度徳島県スモン検診対象者である 25 名のうち、返送が得られた 17 名 (男性 6 名、女性 11 名、平均年齢 82.3 歳 ± 3.14) を分析対象とした。内容は心理的適応度 (Development and validation of the Psychological Adaptation Scale, 以下 PAS) を参考に英語版を日本語に翻訳し、4 つの下位尺度の計 20 項目を使用した。次に、ブリーフ・レジリエンス尺度日本語版 (Brief Resilience Scale-Japanese version, 以下 BRS-J) を測定した。併せて、日本語版簡易 mRS 質問票 (Japanese version of simplified modified Rankin Scale Questionnaire, 以下 J-RASQ) を用いた。PAS 合計得点は平均 (95%CI) = 60.59 (52.18-69.00)、PAS 各下位尺度得点は、対処能力は平均 (95%CI) = 14.94 (12.49-17.40)、自尊心は平均 (95%CI) = 14.18 (12.07-16.28)、社会的適合は平均 (95%CI) = 15.82 (13.86-17.79)、精神的幸福感は平均 (95%CI) = 15.59 (13.01-18.17) であった。また、PAS 各下位尺度間に有意差は認められなかった ($p = 0.706$)。BRS-J 得点は平均 (95%CI) = 14.76 (12.03-17.49) であった。J-RASQ 得点は平均 (95%CI) = 3.35 (2.63-4.08) であった。PAS の各下位尺度の精神的幸福感は BRS-J と有意な関連が認められた ($p = 0.024$)。PAS と J-RASQ の間に有意な関連は認められなかった ($p = 0.790$)。スモン患者の BRS-J 平均得点は BRS-J の標準化における平均得点に比べて低かった。以上の結果から、スモン患者のストレスからの立ち直りと心理的適応の一部は関連し、ストレスからの立ち直りが精神的幸福感につながり、これが心理的適応の重要な要素になっている可能性がある。

A. 研究目的

徳島県では 2017 年度よりスモン検診時に並行して心理相談を実施している。2017 年度の悩み事相談会では、悩み事の有無と心理相談の希望の有無を調査し

た結果、心理相談を希望しない者が少なからず存在したことが明らかとなった¹⁾。2018 年度は面談用プロトコルを作成し使用した悩み事調査では、悩みがある者はそれを抱えたまま相談もない場合が少なくないこと、

及び心理相談を希望しない者が必ずしも精神的健康度が良好な訳ではなかった²⁾。そこで2019年度は、自然な会話の中で心理的アプローチが行えるように老人用文章完成法テスト及び日本版GHQ12精神健康調査票を用いて心理支援を行った。その結果、スモン患者は一般高齢者よりも精神的健康度が低い可能性があること、老人用文章完成法テストはスモン患者の精神的健康を反映していることが示唆された³⁾。2020年度はスモン患者に認められた精神的健康状態が疾患特異的なものなのか、あるいは他の神経難病患者にも共通するの否かを明らかにするため、パーキンソン病患者 (Parkinson's Disease, 以下PD) に対して同様の心理検査を実施した。その結果、スモン患者はPD患者よりも精神的健康度が低い傾向があること、また老人用文章完成法テストの回答内容からスモン患者は「病気」に対する否定的感情が強い傾向があった⁴⁾。2021年度は、スモンに関する疾病受容と日常生活の自立度に関する調査を行い、疾病受容の一部の要素は日常生活の自立度に関連することが示唆された⁵⁾。本年度は疾病というストレスを受けた時、どのような過程を経て心理的適応がおこるのか、疾病を受け入れる前の段階について調査することとした。ストレス状態から心理的適応までの過程として、ストレスを受けると一時的に気分が落ち込むが困難から回復する力をレジリエンスと言い、ストレスに対して気分を上昇させる性質があるとしている⁶⁾。そして、時間の経過とともに適応していくプロセスの結果が心理的適応となる。本研究では、レジリエンスと心理的適応の関連、及び日常生活の障害度と心理的適応との関連について検討した。

B. 研究方法

令和4年度徳島県スモン検診対象者である25名に対して、郵送によるアンケート調査を実施した。患者25名のうち返送が得られた17名 (男性6名、女性11名、平均年齢82.3歳±3.14) を分析対象とした。内容は心理的適応度 (PAS) を参考に慢性疾患や疾病リスクへの適応を評価するための尺度であり、PASの英語版を日本語に翻訳し、4つの下位尺度である対処能力、自尊心、社会的適合、精神的幸福感の各5項目の計20項目を使用した⁷⁾。回答は5段階1:まったくあ

てはまらない~5:かなりあてはまるで評価した。分析はPASの4つの下位尺度すべての項目の合計得点とし、得点が高いほど適応度が高いことを示す。次に、ブリーフ・レジリエンス尺度日本語版 (BRS-J) はレジリエンス (ストレスからの立ち直り) を測定するための簡易な尺度であり、計6項目を使用した。回答は5段階1:まったくあてはまらない~5:かなりあてはまるで評価した。分析は徳吉・森谷 (2015) の基準を参考に逆転項目である質問2、4、6は配点を逆にして合計得点とした⁸⁾。BRS-Jの合計における平均値16 (SD=6) であり、22点以上:かなり高い、19点から21点:高い、14点から18点:普通、11点から13点:低い、10点以下:かなり低いを示す。併せて、日本語版簡易mRS質問票 (J-RASQ) は脳卒中診療において身体障害の指標として広く使われているものであり⁹⁾、質問は (A)~(E) の項目を使用した。回答は2つの選択肢:はい、いいえで評価した。分析は日本語版modified Rankin Scale (mRS) 判定基準書を用いて7段階0:まったく症候がない~6:死亡に分類した¹⁰⁾。

分析はPAS各下位尺度間の差をみるために一要因分散分析を行った。また、PAS各下位尺度を説明変数、BRS-J及びJ-RASQは目的変数に設定して、それぞれ重回帰分析を行った¹¹⁾。

(倫理面への配慮)

本研究では国立病院機構徳島病院の倫理委員会の承認後に実施した (承認番号34-1)。スモン患者やその家族に対して研究の趣旨をアンケート調査の案内用紙に記載し、アンケートの返送をもって同意とみなした。

C. 研究結果

(1) PAS得点とBRS-J得点及びJ-RASQ得点の基本統計量

スモン患者のPAS合計得点は平均 (95%CI) = 60.59 (52.18-69.00)、PAS各下位尺度得点は、対処能力は平均 (95%CI) = 14.94 (12.49-17.40)、自尊心は平均 (95%CI) = 14.18 (12.07-16.28)、社会的適合は平均 (95%CI) = 15.82 (13.86-17.79)、精神的幸福感は平均 (95%CI) = 15.59 (13.01-18.17) であった。また、一要

表1 PAS 合計得点及び各下位尺度得点

PAS	合計得点	対処能力	自尊心	社会的適合	精神的幸福感	p
平均 (95% CI)	60.59 (52.18-69.00)	14.94 (12.49-17.40)	14.18 (12.07-16.28)	15.82 (13.86-17.79)	15.59 (13.01-18.17)	0.706

表2 BRS-J 得点及び J-RASQ 得点

BRS-J 平均 (95% CI)	J-RASQ 平均 (95% CI)
14.76 (12.03-17.49)	3.35 (2.63-4.08)

表3 PAS 各下位尺度と BRS-J 及び J-RASQ の重回帰分析

	p	
	BRS-J	J-RASQ
対処能力	0.077	0.817
自尊心	0.535	0.296
社会的適合	0.502	0.447
精神的幸福感	0.024	0.462

因分散分析の結果、PAS 各下位尺度間に有意差は認められなかった ($p = 0.706$) (表 1)。次に BRS-J 得点は平均 (95% CI) = 14.76 (12.03-17.49) であった。J-RASQ 得点は平均 (95% CI) = 3.35 (2.63-4.08) であった (表 2)。

(2) PAS 各下位尺度得点と BRS-J 得点及び J-RASQ 得点の関連

PAS 各下位尺度の精神的幸福感は BRS-J と有意な関連が認められた ($p = 0.024$)。その他、PAS 各下位尺度の対処能力、自尊心、社会的適合は BRS-J と有意な関連は認められなかった。 ($p = 0.077$)、 ($p = 0.535$)、 ($p = 0.502$)。次に PAS 各下位尺度の対処能力、自尊心、社会的適合、精神的幸福感は J-RASQ の間に有意な関連は認められなかった ($p = 0.817$)、 ($p = 0.296$)、 ($p = 0.447$)、 ($p = 0.462$) (表 3)。

D. 考察

レジリエンス (resilience) は、1970 年代から使用されるようになった概念である。人生において人は、親しい人の死や離婚、病気、事故など、さまざまなライフイベントを経験する。かつては、それらの経験により何割の人が不適応やうつ病、心的外傷後ストレス障害などの病因、病態に関する研究がなされていた。しかし、すべての人が精神的不調を示すわけではなく、精神的な健康を維持し続けることがある。この後者のポジティブな特性に注目して生まれたのがレジリエンスである¹²⁾。Pangallo らによると、レジリエンスは 1) ネガティブな結果をもたらすような重篤なストレス 2) ポジティブな適応を促進する個人と環境資源 3) 良好な適応に着目した概念であることは、一定の共通認識が得られているものの、その定義は多様化しているのが現状である¹³⁾。今回の研究では、ストレスレジリ

エンスをストレスからの立ち直りとして位置づけることとした。我々は、2017 年度よりスモン患者に対する心理学的アプローチを行い、スモン患者は精神的健康度が低い傾向にあること、さらには「健康」に関する否定的感情がスモン患者の精神的健康度を低下させている可能性があることを示してきた⁴⁾。このことはスモン患者が薬害という身体的精神的外傷 (ストレス) を受け、個々の人生に大きな影響を与えた出来事である。本年度は疾病というストレスを受けた時、どのような過程を経て心理的適応がおこるのか、疾病を受け入れる前の段階について調査することとした。また、日常生活の障害度は心理的適応と関連するの否かについても把握することとした。スモン患者の J-RASQ 得点は平均 (95% CI) = 3.35 (2.63-4.08) であった。昨年度の J-RASQ 得点平均 (95% CI) = 2.95 (2.38-3.52) であり⁵⁾、昨年度と比較してやや悪化していた。また、PAS と J-RASQ との間に有意性は認められず、スモン患者の日常生活の障害度と心理的適応度は関連がみられなかった。

一方、スモン患者の BRS-J 平均得点は BRS-J の標準化における年齢層の平均得点に比べて低かった。レジリエンスは、各発達段階において経験される課題や出来事を介して上昇していくが¹⁴⁾、スモン患者は現在もなお視力障害や歩行障害、異常感覚などの神経学的な後遺症に苦しんでおり¹⁵⁾、スモンが日常生活に与えた影響や苦悩がレジリエンスの低さに関係しているのではないかと考えられる。しかしながら、スモン患者と BRS-J の標準化における平均得点の比較では年齢層が異なることや対象数が少ないことから、さらなる検討が必要であった。次に、BRS-J は心理的適応度

の一部である精神的幸福感との関連が認められた。このことは、スモン患者のストレスからの立ち直りと心理的適応度の一部は関連し、ストレスからの立ち直りは精神的幸福感を感じることで支えられていることが考えられる。これまでの心理介入においても、スモン患者は家族や友人などのサポートに感謝されており²⁾³⁾、このことが精神的幸福感に寄与しているものと考えられた。

E. 結論

スモン患者の日常生活の障害度と心理的適応には関連がみられなかった。スモン患者のBRS-J平均得点はBRS-Jの標準化における年齢層の平均得点に比べて低かった。しかしながら、スモン患者とBRS-Jの標準化における比較では年齢層が異なることや対象数が少ないことから、さらなる検討が必要であった。一方、スモン患者のストレスからの立ち直りと心理的適応の一部は関連し、ストレスからの立ち直りが精神的幸福感につながり、これが心理的適応の重要な要素になっている可能性がある。

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

I. 文献

- 1) 向山結唯ほか スモン検診対象者への臨床心理的アプローチの必要性, 平成 29 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 (難治性疾患政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)) スモンに関する調査研究班研究報告会プログラム・抄録集: 33, 2018.
- 2) 井上真理子ほか スモン患者に対する心理的アプローチ, 平成 30 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 (難治性疾患政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)) スモンに関する調査研究班研究報告会プログラム・抄録集: 57, 2019.
- 3) 三ツ井貴夫ほか スモン患者の精神的健康に対する心理支援の探索, 厚生労働行政推進調査事業費補助金 (難治性疾患政策研究事業) スモンに関する調査研究令和元年度総括・分担研究報告書 p199-206.
- 4) 三ツ井貴夫ほか スモン患者の精神的健康度: パーキンソン病患者との比較, 厚生労働行政推進調査事業費補助金 (難治性疾患政策研究事業) スモンに関する調査研究令和 2 年度総括・分担研究報告書 p 205-212.
- 5) 三ツ井貴夫ほか スモン患者の疾病受容に関する研究, 厚生労働行政推進調査事業費補助金 (難治性疾患政策研究事業) スモンに関する調査研究令和 3 年度総括・分担研究報告書 p161-164.
- 6) レジリエンス (精神的回復力) とは? その促進方法と測定方法, システム化に向けた調査 <http://www.cc.aoyama.ac.jp/well-being/resilience/index.html> (2023 年 1 月 10 日)
- 7) Biesecker BB et.al. Development and validation of the Psychological Adaptation Scale (PAS): Use in six studies of adaptation to a health condition or risk. Patient Educ Couns 2013 November ; 93. 1-14
- 8) 徳吉陽河・森谷満 プリーフ・レジリエンス尺度 日本語版 (BRS-J) の開発 日本心理学会 79 回大会発表論文集, 354, 2015.
- 9) 井健一朗ほか 日本語版簡易 modified Rankin Scale 質問票 (J-RASQ) の開発と検証, 臨床神経学, 59 (7): 399-404, 2019.
- 10) (旧版) 脳卒中治療ガイドライン 2009 <https://minds.jcqhc.or.jp/n/med/4/med0081/G0000262/0157> (2023 年 1 月 6 日)
- 11) 柳井久江: エクセル統計第 4 版 オーエムエス出版 2015
- 12) 内野小百合 災害救助者におけるレジリエンスの文献検討 東京女医大看会誌 Vol 9. No 1. 15-20, 2014.
- 13) Pangallo, A., Zibarras, L. D., Lewis, R., & Flaxman, P. (2015). Resilience through the lens of interactionism: A systematic review. Psychological Assessment, 27, 1-20.
- 14) 上野雄己ほか 日本人成人におけるレジリエンスと年齢の関連 心理学研究 89 (5) 514-519, 2018
- 15) 久留聡ほか 令和 3 年度検診からみたスモン患者の現況, 令和 3 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 (難治性疾患政策研究事業) スモンに関する調査研究令和 3 年度総括・分担研究報告書 p25-49.

資料1 PAS項目

内 容	下位尺度
1. 物事をそのまま受け止めることができるようになった	対処能力
2. 困難な状況に対応できるようになった	社会的適合
3. 人生に対する感謝の気持ちをもつようになった	精神的幸福感
4. 問題への対処力が向上した	自尊心
5. 穏やかに気持ちにさせてくれる	精神的幸福感
6. 不確実性にうまく対処できるようになった	対処能力
7. 自分が自分であることにもっと満足できるようになった	自尊心
8. 大切な人との距離を縮めることができた	社会的適合
9. よりよい人間になるために役立った	自尊心
10. 物事をよりポジティブに捉えることができるようになった	対処能力
11. より強い人間になるために役立った	自尊心
12. 自分の信仰や精神的な信念に強さを見出すのに役立った	精神的幸福感
13. 人の役に立ちたいという気持ちが強くなる	社会的適合
14. 物事の成り行きを受け入れることができるようになった	対処能力
15. 他の人からの愛情やサポートにもっと気づくことができた	社会的適合
16. 人生の目的意識をより深くもつことができるようになった	精神的幸福感
17. 変えられないものへの適応の仕方を教えてくれた	対処能力
18. 人間関係をより有意義なものにすることができた	社会的適合
19. 私の人生がより有意義なものであることを教えてくれた	精神的幸福感
20. 困難な状況への対処を学ぶのに役立った	自尊心

資料2 BRS-J項目

内 容
Q1. 私はつらい時があった後でも、素早く立ち直れる
Q2. 私はストレスの多い出来事を乗り越えるのに苦労する
Q3. ストレスが多い出来事から立ち直るのに長くはかからない
Q4. なにかしら不遇な出来事が起きた時に立ち直るのは難しい
Q5. ささいな問題があっても、たいていやり過ごせる
Q6. 人生における遅れを取り戻すのに時間がかかる